

3. 国際共同研究

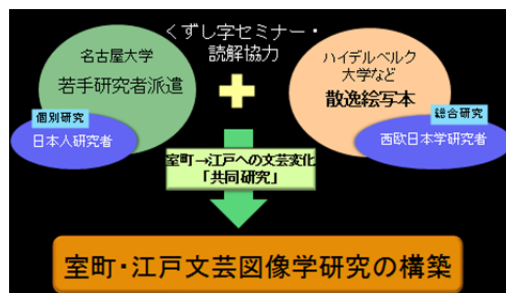
【採択時公表】

3- (1) 全体概要

本欄には、本事業を実施することにより、到達目標へどのように繋げていくのかを、2.に記載した実施体制等を含めて、全体的な概念を図等を使って分かりやすく示した上で、以下に続く3- (2) 研究目的及び到達目標、3- (3) 研究計画・方法の各項目について全体的な概要を簡潔にまとめて記述してください。(図と記述で1頁以内)
 なお、本欄(3- (1))は採択された場合、採択後本会HP等で公表される予定です。

〔研究目的及び到達目標〕

本事業は、日本文化研究の海外拠点機関、特にEUにおいて日本学を主導する独・ハイデルベルク大学との頭脳循環の連携を構築することにある。この拠点機関を中心に、名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターに所属する読解や注釈研究など、基盤研究を得意分野とする若手研究者を派遣し、欧州に保存される絵写本・版本の絵(画像)と詞書(文学)が融合した複合テキストを対象として、学際的手法を開拓しつつ、その普遍的意義や歴史・社会的機能を解明し、世界的な文化遺産としての創造的継承を目指す。



●日本及び西欧各地に所在する、絵写本や絵入り本など、室町・江戸文芸の読解や注釈を、当該文芸を専門とする日本人研究者、若手研究者や海外日本学研究者が共同で行い、それらの普遍的価値を示す。また、成果としての論文集や図録及び翻刻と注釈などを、英語、独語、仏語に翻訳して、海外所蔵者と共有し、教育・学术界における室町・江戸文芸研究の国際的進展と向上に貢献する。ひいては、国際的文化発信の基盤を築き、絵写本研究の国際的拠点を名古屋大学に形成し、若手研究者の国際化を推進する。

●独国や仏国では、ハイデルベルク大学メラニー・トレーデ氏が筆頭に、西欧の日本学研究者による西欧内美術館「江戸絵写本」研究が大きな成果を挙げ、その成果は世界に発信されている。

●従来の日本文学研究は、翻刻・注釈、流布本本文との比較、類型の比較研究など個人研究が中心で、西欧の日本学研究は、「翻刻・注釈」に弱点を抱え、流布本本文の参照資料も少ないため、絵写本に関わる構造的、歴史的成立の理論研究を重んじ、共同研究中心の傾向にある。一方、日本文学研究はその理論性が脆弱との批判を海外からは受けており、日本人若手研究者の国際的発表に、高評価が望めない状況がある。

●また、当該文芸は、古典文学、説話文学、宗教、芸能、宗教儀礼などが複合的に取り込まれ、その特徴である和漢の学芸教養、類纂、戯作意識により、複雑で高度に構成される文化的価値の高い文芸である。

●それゆえ、個人研究に始終しては有機的な研究は難しく、室町後期の絵物語や絵本に取り込まれた流行芸能も、江戸期に至って、屏風絵など視覚文芸として享受される様相があり、文化的な展開を明らかにすることは、従来型の研究では困難である。

●さらに、近現代の日本文化の多くの源流が室町や江戸時代にあるにも関わらず、重要な資料の多くは明治以降、海外に流出し、公私の博物館、図書館等に散逸したまま、他国の貴重財産となっており、室町・江戸文化研究の大きな損失となっている状況も、海外との共同研究を必要とする点である。

●このような理由から、本事業では、海外研究者も含めた学際・汎領域研究による研究の高度化を推進し、多元的な学術交流の下に、その文化的意義や社会的機能を解明し、総合的な文芸画像学研究の国際的拠点を形成する。さらに、ハイデルベルク大学やストラスブール大学での絵写本の翻刻、注釈研究や「くずし字」セミナー実施により、日本学研究者の裾野の拡大を図り、これに携わる日本人若手研究者の組織的育成を実施する。

〔研究計画・方法〕

本事業では、絵写本研究を進めるハイデルベルク大学や江戸版本を多く所蔵するアルザス地方に立地するストラスブール大学を中心に、パリ・ディドロ大学やINALCOなどのフランス人日本学研究者所属大学や美術館とネットワークを形成し、絵写本・版本を中心に以下の共同研究を実施する。

- ①日本人研究者を国内調査班、海外調査班、翻刻・注釈研究、詞書・画中詞構造研究、語彙構造研究に組織し、国内研究会を実施し、相互の有機的研究を進める。
- ②ドイツやフランスを始めとする在外公立美術館や図書館蔵の、日本では存在が確認されていない絵写本、絵入り本資料調査を中心に、註解研究を、派遣若手研究者とメンバーの日本学研究者が共同して行い、画像テキストが本来属していた世界とコンテキストを解明する。
- ③派遣若手研究者を中心に、それらの絵写本を元に、「くずし字」読解や注釈セミナーを協力機関の研究者や学生と共に進め、日本研究の裾野を広げ、学問分野を横断し統合する力を持つ研究者を育成する。
- ④英語、独語、仏語などへの翻訳に協力し、データベース化に積極的に関与するなど、研究成果を所蔵図書館・美術館に還元し、公開アーカイブス化等により、ハイデルベルク大学と名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターを中心に、世界的な絵写本研究ネットワークを構築する。
- ⑤①～④における成果を年次ごとに行う国際研究集会で報告し、論文集刊行により、若手研究者の論文執筆に協力し、最終年度は、成果を日本のみならず、西欧でも刊行し、日本文学研究の国際化を推進する。

※本ページは増やせません。

(平成29年度公募)